

メガバンクから野球部監督を経て 校長に。身につけてほしいのは チャレンジする気持ちと主体性

自分で考え判断し行動できてこそ 必要で信頼される人となる

私は31年の銀行勤めの間、14の部署を異動し、退職後は中高一貫校の事務長や野球部の監督を経験しました。一般的に学校の先生は、特に私立の場合は異動が少ないこともあって「社会の変化に疎い」と言われることもあるでしょうし、私にもそうした思い込みがありました。しかし、年度末の送別会で、学校を去る先生方が口々に生徒との思い出を語る場面に接し、気づかされました。職場の人間関係は変わらずとも、目の前の生徒は毎年入れ替わるわけで、生徒を通して世の中の移り変わりを見ているんだと。ビジネスの経験をそのまま学校に持ち込むと、つい学校に対して批判的な見方になってしまうため、そうならないよう気を付けています。

還暦を過ぎた私が不慣れな道に来たのは、チャレンジの大切さを伝えたいからです。保守的と思われがちな銀行ですが、私がいた三和銀行(現三菱UFJ銀行)は違いました。常に何かを変えることを期待されるなど、挑戦が当然の文化でした。ただ、年を重ねてからの失敗はやり直しが効かないのも事実で、だか

らこそ若いうちに失敗し、それを糧に成長してほしい。学校はそのための場だと思います。

もう一点、教師がするべきは、生徒を信じて任せることです。自分で考え判断し、責任ある行動がとれてこそ、本校の校訓である「必要で信頼される人」になれます。そう言い続けた結果、生徒が主体性を発揮する事例が増えてきました。例えば、皆の不便解消のため、駅へ向かう路線バスの運行状況を表示するサイトを作成した有志がいます。校長室を訪れ、「こんなサイトを作っているので支援してください」と依頼にきた頼もしい生徒たちです。

同じく校長室を訪ね、探究の成果をプレゼンした生徒もいました。「クラス代表に選ばれず悔しいため直接聞いてほしい」と言うのです。わが国の社会課題に鋭く切り込んだ問題提起で見事な内容でした。さらには、同じ課題に取り組んでいるある国会議員と会いたいとまで言い出し、私の知り合いを通じて実際に会いにいくという抜群の行動力を発揮しました。

数千人と関わってきた経験を 組織マネジメントや人間教育に活かす

ここ2年の本校の変化として、探究学習の

強化、自由選択科目の拡充などカリキュラムの精選、早朝テストや放課後補習の廃止、高大連携や国際教育の充実などが挙げられますが、私ならではの取組といえそうなのが、金融特別講座や現代政治入門など、各界の講師を招いての「目的別講座」です。単発の講演とは別に行われるシリーズ形式の選択授業です。また毎回20人ほどの生徒が集まり、「若者と政治」など、時々テーマで校長と語り合う「こうがく広学サロン」という時間も始めました。

私には教科を教える力はありません。その代わり、銀行員としてわが国の経済を支えている企業経営者千人以上と関わってきた経験や、目標達成に向けてどう組織をマネジメントしていくか、さらに言えば、人としてどうあるべきかといった人間教育みたいなものはできていると思っています。

あさき・ひでき / 1962年生まれ。東京大学経済学部卒業。在学中は硬式野球部のキャッチャーとして活躍。同期の大越健介氏(報道ステーションキャスター)とバッテリーを組み、東京六大学リーグ戦通算24勝を記録。卒業後、三和銀行(現三菱UFJ銀行)に入行し、3支店の支店長を歴任。退職後の2016年学校法人麻布学園事務長に就任。2018年、企業勤務の傍ら筑波大学附属駒場高校野球部監督に。2023年9月横浜隼人中学・高校副校長。2024年より現職。神奈川県高等学校野球連盟副会長。